

## 南檜山圏地域推進方針領域別推進状況

領域	施策の方向性	主な施策	取組状況（保健所、町、その他）	評価（達成状況、推進上の課題、地域の課題など）	次年度の取組予定（保健所、町、その他）
			RO3、RO4 実績（見込み含む）		
がん	がん予防の推進	<p>○食習慣の普及定着、タウンミーティングの開催等</p> <p>○禁煙支援の医療機関の周知、受動喫煙防止対策、未成年者の喫煙防止対策等</p>	<p>・がん教育出前講座 小学5・6年生対象（RO3、RO4依頼なし）</p> <p>・健康教育 がん予防（RO3、RO4依頼なし）</p> <p>&lt;各町の主な取組&gt;</p> <p>・中学生女子の希望者に子宮頸がん予防接種の実施〔厚〕</p> <p>・小・中学校におけるがん教育（R3.2.17）〔厚〕</p> <p>・食生活改善事業への参画 江差地方食生活改善協議会代表者会議（RO3：1回、RO4：1回） 食生活改善推進員養成講座に伴う講師派遣（RO3：乙部町2回、RO4：江差町1回）</p> <p>・パネル展にて食習慣に関する普及啓発を実施</p> <p>・特定給食施設等指導の実施（個別、集団）</p> <p>・道南ブロック行政栄養士研修会（RO3：1回、RO4：1回）</p> <p>・管内行政栄養士研修会（RO3：1回、RO4：1回）</p> <p>・管内行政栄養士業務連絡会（RO4：2回）</p> <p>・小中学生減塩対策検討会議（RO4：3回）</p> <p>・食品表示法に係る相談対応</p> <p>&lt;各町の主な取組&gt;</p> <p>・食生活改善協議会及び健康推進協議会への支援〔江・上・厚・乙〕</p> <p>・自治会等や通いの場に対する栄養改善事業〔厚・乙〕</p> <p>・栄養士による中高生への食育講話〔江〕（R4.12.6、R4.12.13）</p> <p>・食育教室〔厚〕</p> <p>・特定保健指導、訪問指導〔各町〕</p> <p>・広報へのレシピや健康情報の掲載〔厚〕</p> <p>・ホームページによる禁煙支援を実施している医療機関の周知</p> <p>・未成年者の喫煙防止対策（RO3・RO4、依頼なし）</p> <p>・北海道受動喫煙防止条例の説明会（RO3：2回、RO4：1回）</p> <p>・パネル展にて受動喫煙防止対策の実施</p> <p>&lt;各町の主な取組&gt;</p> <p>・母子手帳交付時等における普及啓発、禁煙指導〔江・上・厚・乙〕</p> <p>・健診結果説明会、特定保健指導時における禁煙指導〔江・上・厚・乙〕</p> <p>・乳幼児健診・相談時の知識の普及〔江・上・厚・乙〕</p> <p>・健康教育（喫煙等）</p> <p>・飲酒喫煙薬物乱用防止教室（RO3：3回、RO4：2回）〔上〕 （RO3：1回、RO4：1回）〔乙〕</p> <p>・第2種施設に対する受動喫煙対策の把握〔江〕</p> <p>・広報、ポスター等による知識の普及〔上・厚・乙〕</p>	<p>・がんに関する正しい知識を普及するため、事業の周知を図り希望があった場合、事業の実施を検討する。</p> <p>・希望する学校が少ないので、実施方法の見直しが必要。</p> <p>・食生活改善事業への参画及び各種研修会等を実施することにより、知識の向上や、管内の栄養課題の情報共有及び普及啓発に向けた取組を検討することが出来た。</p> <p>・中高生への食育講話について継続した事業を実施出来ている〔江〕</p> <p>・バランスを意識した栄養改善の知識を普及できているが、働く世代への普及啓発の機会が少ない〔上〕</p> <p>・地区組織では、学習会後地域への自主活動につながっている〔上〕</p> <p>・学校や地域と協力して事業を実施することが出来た〔厚〕</p> <p>・北海道受動喫煙防止条例の普及により、各種施設内に禁煙化、分煙化されたため、望まない喫煙が以前よりも改善されていると見込まれる。</p> <p>・禁煙対策として健康教育、禁煙指導、普及啓発が行われている。〔各町〕</p> <p>・受動喫煙対策では、具体的な取り組みは出来ていないが、ホームページ上での周知等は継続して実施している〔江〕</p> <p>・小学校への講話については毎年度継続実施をしているため、知識として子どもたちに普及できている。〔上〕</p> <p>・全ての妊婦に飲酒・喫煙等への指導はできているが、一方で禁煙できていない妊婦もみられる。〔上〕</p>	<p>・がん教育出前講座について、依頼に応じて実施する。</p> <p>・江差地方食生活改善協議会交流会の開催</p> <p>・特定給食施設等指導の実施（個別、集団）</p> <p>・行政栄養士研修会等の開催</p> <p>・小中学生減塩対策検討会議の開催</p> <p>・食品表示法に係る相談対応</p> <p>〔重点〕食生活改善協議会への支援〔上〕</p> <p>〔重点〕小・中・高食育教室〔上〕</p> <p>〔重点〕地区組織の育成・支援〔上〕</p> <p>・未成年者の喫煙防止対策について、依頼に応じて実施を検討する。</p> <p>・改正健康増進法に係る受動喫煙対策の普及啓発及び指導・助言。</p> <p>・北海道受動喫煙防止条例の周知徹底。</p> <p>〔重点〕母子手帳交付時の指導の強化〔上〕</p> <p style="text-align: right;">cfr t</p>
	がんの早期発見	○受診勧奨、関係団体との連携による受診率の向上	<p>・がん検診各受診率に係る情報の収集等</p> <p>・パネル展にてがん検診の受診勧奨を実施</p> <p>・南檜山管内及び函館市におけるがん検診の精密検査受診可能医療機関一覧の作成</p> <p>・地域・職域関係団体へ健診の実施状況等の把握を行うため「アンケート調査」を実施（RO3）</p> <p>・南檜山地域・職域連携推進連絡会（RO4：3回）</p> <p>→連携事業：「南檜山地域で働く人とご家族のための健診ガイド」を作成（RO4）</p> <p>・セミナー、研修会等の周知</p> <p>&lt;各町の主な取組&gt;</p> <p>・各種がん検診、ピロリ菌検査、ABC検診の周知〔各町〕</p> <p>・受診勧奨リーフレット、無料クーポン券の配付（子宮、乳）〔上〕</p> <p>・40歳への無料クーポンセット配付（がん・ABC検診）〔上〕</p> <p>・がん検診推進事業「健康ポイント事業」〔上〕</p> <p>・40歳を対象とした肝炎ウイルス検査</p> <p>・民間企業の協力の元、がん検診周知チラシを配布〔江〕</p> <p>・おくしり健康マイレージ事業〔奥〕</p> <p>・無料検診（子宮がん26、31歳、乳がん46、51歳）〔乙〕</p> <p>・個別通知（はがき）によるがん検診の受診勧奨（42歳、47歳、52歳、57歳、62歳、67歳になる者）〔乙〕</p> <p>・特定健診との合同実施〔上・厚〕</p> <p>・胸部肺CT検査の実施〔厚〕</p> <p>・大腸がん検診の個別検診〔上〕</p> <p>・検診未受診者への受診勧奨〔江・上・乙〕</p> <p>・広報・健康相談によるがん検診の推進〔厚・乙〕</p> <p>・保健推進員によるがん検診普及活動〔厚〕</p> <p>・健康情報パンフレット及び健康手帳の配布（40歳）〔乙〕</p>	<p>・検診実施方法、実施期間、住民周知方法、受託機関の受入れ体制の調整等が課題である。</p> <p>・がん検診受診率（R2地域保健・健康増進事業報告）</p> <p style="margin-left: 20px;">全道 5.5（肺）～15.6（乳）%</p> <p style="margin-left: 20px;">南檜山 4.6（肺）～18.1（乳）%</p> <p>・管内では、がん検診の受診率は横ばいか、やや減少の傾向にあるが、受診者の固定化や高齢化が進んでいる。</p> <p>・地域と職域の関係団体が連携することで、地域の健康課題を共有し、働き盛り世代の健康管理に関する実態や課題を共有する必要がある。</p> <p>・特に個人事業主等の健（検）診未受診者をすくい上げることが重要。</p> <p>・コロナ禍の影響を受けながらも例年並みのがん検診の機会を確保したが、コロナ禍以前の受診率には戻っていない〔江〕</p> <p>・がん検診受診者数は、子宮がん以外は増加傾向であった。子宮がん検診の受診者数が伸びない一方で、乳がん検診については定員オーバーのため、検診を受けることが出来ない人がいる月もあった。〔上〕</p> <p>・新型コロナウイルス感染症予防のため受診を見合わせる方もあり、前年を下回る受診率となった。次年度に向けて受診につながるよう検診体制の充実や周知を行っていく。〔厚〕</p> <p>・受診者の固定化、高齢化がみられる。〔乙〕</p> <p>・若年層と新規受診の受診勧奨が課題。〔奥〕</p>	<p>・がん検診各受診率に係る情報の収集等</p> <p>・南檜山地域・職域連携推進連絡会の開催及び連携事業の実施</p> <p>&lt;各町における取組&gt;</p> <p>〔重点〕未受診者の受診勧奨〔江〕</p> <p>〔重点〕がん検診受診促進の普及啓発及び実施体制の整備〔上・厚〕</p> <p>〔重点〕早期発見のための各種検査及び助成事業〔乙・奥〕</p> <p>〔重点〕健康マイレージ事業〔奥〕</p>
	がん医療	○在宅医療、相談支援機能の充実等	<p>・ほっこりの会（がんサロン） （道立江差病院 RO3・RO4、未実施）</p>	<p>・サロンは定期的で開催されることによって、がん患者の苦痛軽減について成果が期待できるが、コロナ禍での低迷や病院の体制に伴う対象者の減少があったため、実施方法の見直しが必要。</p>	<p>・ほっこりの会（がんサロン）について、R5年度道立江差病院での開催の再開について検討中</p>
医療連携体制	○道南医療圏の拠点病院等との連携等	<p>・函館・道南がん対策応援フォーラム（函館市） RO3（1回開催）、RO4（未開催）</p>	<p>・関係機関等と協力し、道南圏域でのがん対策を推進する。</p>	<p>・函館・道南がん対策応援フォーラムへの出席（年4回程度開催）（函館市）</p>	

## 南檜山圏域地域推進方針領域別推進状況

領域	施策の方向性	主な施策	取組状況（保健所、町、その他）	評価（達成状況、推進上の課題、地域の課題など）	次年度の取組予定（保健所、町、その他）
			RO3、RO4 実績（見込み含む）		
脳卒中	予防対策の充実	○メタボリックシンドロームに係る知識の普及啓発等  ○特定健康診査受診率の向上、個別健診の拡大等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページによる生活習慣病予防の普及啓発</li> </ul> <p>&lt;各町の主な取組&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特定健診、特定保健指導〔各町〕</li> <li>・特定健診未受診者対策〔各町〕 <ul style="list-style-type: none"> <li>特定健診受診率向上対策事業と合わせて国保対象者へ個別通知〔江〕</li> <li>特定健診受診者及び結果説明会来所者へEZOCAポイントの付与（インセンティブ実施）〔江〕</li> <li>訪問指導〔上・乙〕</li> <li>健康ポイント事業、広報活動〔上〕</li> <li>パンフレット及び健康手帳の配布、訪問による健康確認(40歳)〔乙〕</li> <li>おくしり健康マイレージ〔奥〕</li> </ul> </li> <li>・後期高齢者健診〔各町〕</li> <li>・脳ドック〔各町〕</li> <li>・生活保護受給者等健康診査〔江・上・乙・奥〕</li> <li>・若年者健診（厚）</li> <li>・健診結果説明会〔江・厚・乙〕</li> <li>・高血圧対策 <ul style="list-style-type: none"> <li>広報誌による高血圧特集記事を掲載〔江〕</li> <li>血圧計の貸出、血圧手帳の配布〔江〕</li> <li>えさしレシビの開発・普及〔江〕</li> <li>家庭血圧測定普及のための広報活動及びアンケートの実施、塩分計の貸し出し〔上〕</li> </ul> </li> <li>・地区組織の育成等 <ul style="list-style-type: none"> <li>食生活改善推進協議会養成講座の開催〔江〕</li> <li>食生活改善協議会への支援〔江・上・厚・乙〕</li> </ul> </li> <li>・身体活動・運動 <ul style="list-style-type: none"> <li>えさしバトン体操の普及〔江〕</li> <li>すこやかロードを活用した事業の実施〔江〕</li> <li>すこやかロードの認定〔乙〕</li> <li>健康体操・運動教室〔江・上・厚・乙〕</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍の影響を受けながらも、対面での保健指導件数は昨年度より増加〔江〕</li> <li>・後期高齢者の脳ドック費用の自己負担を軽減したことで、受診者が増加〔江〕</li> <li>・特定健診未経験者が多い〔上〕</li> <li>・地区組織の育成は、学習会後の地域への自主活動につながっている〔上〕</li> <li>・体操教室は、体重減少等の効果みられるが、新規の参加者が少ないため、事業実施の見直しを予定〔上〕</li> <li>・参加者や特定保健指導対象者が固定化しつつあるため、魅力ある体制づくりが必要〔厚〕</li> <li>・健康教育の参加者が固定化している。また、特定健診の受診者の高齢化が進んでいる。若い世代での健康教育等に関わる機会がなく、疾病予防についての働きかけに課題がある〔乙〕</li> <li>・働く世代をターゲットに夜間の運動教室を実施。初めは参加者が多かったが、コロナの影響で一時中止した後は、参加者が減少した。講師の確保と継続参加してもらえないことが課題〔乙〕</li> <li>・保健指導介入前後の検査値の変化が課題〔奥〕</li> </ul>	<p>&lt;各町における取組&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>〔重点〕特定健診受診率向上対策〔江・上〕</li> <li>〔重点〕特定健診未受診者対策〔乙・奥〕</li> <li>〔重点〕地区組織の育成、支援〔上〕</li> <li>〔重点〕えさしレシビの普及啓発〔江〕</li> </ul>
	医療連携体制	○南檜山圏域医療連携システムを活用した急性期病院との連携等	・道南脳卒中地域連携協議会（RO3、1回開催）	・道南脳卒中連携協議会等により、医療と地域の連携を進める必要がある。	・道南脳卒中地域連携協議会への出席（年2～3回）など、道南医療圏と情報共有を行い必要な医療連携体制の確保に努めていく。
心筋梗塞等の心血管疾患	予防対策の充実	○特定健康診査の受診率向上、特定保健指導実施率の向上等  ○急性心筋梗塞を予防するための保健事業の推進等	<p>&lt;各町の取組&gt;</p> <p>※ 健康づくり事業行動計画では「循環器疾患」に係る取組として調査していることから、「脳卒中」の中の記載を参照</p>	※ 左記に同じ	※ 左記に同じ
	医療連携体制	○道南の医療機関との連携、情報共有等	・南檜山圏域医療連携システム（イ・ネット南檜山）等を活用した、南渡島の急性期医療機関との診療連携（RO1 江差病院主催連携システム研修会実施.RO3 . RO4 未実施）	・道南圏域でクリティカルパスとして活用している「脳卒中・急性心筋梗塞あんしん連携ノート」の活用を促進する必要がある。	・南檜山圏域医療連携システム（イ・ネット南檜山）等により、道南医療圏と情報共有を行い必要な医療連携体制の確保に努めていく。

## 南檜山圏域地域推進方針領域別推進状況

領 域	施策の方向性	主な施策	取 組 状 況 （保健所、町、その他）	評価（達成状況、推進上の課題、地域の課題など）	次年度の取組予定（保健所、町、その他）
			RO3、RO4 実績 （見込み含む）		
糖 尿 病	<p>予防対策の充実</p> <p>医療連携体制</p>	<p>○望ましい生活習慣・食習慣の普及定着等</p> <p>○運動習慣の確立、運動方法、効果の普及啓発等</p> <p>○道南の医療機関との連携、情報共有等</p>	<p>・食生活改善事業への参画（再掲） 江差地方食生活改善協議会代表者会議（RO3：1回、RO4：1回） 食生活改善推進員養成講座に伴う講師派遣（RO3：乙部町2回 RO4：江差町1回）</p> <p>・パネル展にて食習慣に関する普及啓発を実施</p> <p>・特定給食施設等指導の実施（個別、集団）</p> <p>・道南ブロック行政栄養士研修会（RO3：1回、RO4：1回）</p> <p>・管内行政栄養士研修会（RO3：1回、RO4：1回）</p> <p>・管内行政栄養士業務連絡会（RO4：2回）</p> <p>・小中学生減塩対策検討会議（RO4：3回）</p> <p>・食品表示法に係る相談対応</p> <p>・ノルディックウォーキング普及推進員養成講習会の開催（RO3）</p> <p>＜各町の主な取組＞（脳卒中に記載されている取組を除く）</p> <p>・健診結果説明会で糖尿病予防や重症化リスクについて説明 [各町]</p> <p>・特定健診・保健指導に関する統計資料の集計及び分析 [上]</p> <p>・南檜山糖尿病重症化予防プロジェクト プロジェクトチーム推進会議 （RO4：0回、RO3：3回、） 医療機関からの指示件数 （RO4：17件、RO3：8件）</p> <p>・南檜山糖尿病重症化予防プロジェクトに関する実態把握</p> <p>・住民への普及啓発（機関誌「リンクルみなみひやま」への掲載） （RO4：1回、RO3：3回）</p> <p>・糖尿病重症化予防研修会（関係者向け） （RO4：0回、RO3：0回）</p> <p>・南檜山地区糖尿病診療を考える会 （RO4：0回、RO3：0回）</p> <p>・研修会（関係者向け）道立江差病院主催 （RO4：0回、RO3：0回）</p> <p>・糖尿病教室（住民及び関係者向け）道立江差病院主催 （RO4：0回、RO3：0回）</p> <p>＜各町の主な取組＞</p> <p>・南檜山糖尿病重症化予防プロジェクトとの連携 [各町]</p> <p>・糖尿病連絡システムの活用（檜山管内・管外） [江・上]</p> <p>・奥尻町糖尿病重症化予防プログラム [奥]</p>	<p>・「がん」領域に記載のとおり</p> <p>・糖尿病治療中断者について、KDBシステムにより抽出受診勧奨を実施。今後の保健指導につなげる予定。 [江]</p> <p>・糖尿病の新規発症者が多く、保健指導によっても改善が難しいケースもある。（男性、肥満者、後期高齢者） [上]</p> <p>・指導対象者が決まってきたため、新しい手法が必要。 [厚]</p> <p>・受診者の固定化、高齢化がみられる。また、普及啓発については若い世代と関わる機会がなく働きかけに課題がある。 [乙]</p> <p>・保健指導介入前後の検査値の変化が課題。 [奥]</p> <p>・新規の指示件数は17件。昨年度よりも増加した。</p> <p>・プロジェクト利用者のほとんどは医療機関からの紹介で、各町における健診等からのつながりは少ない。</p> <p>～プロジェクトの実態～</p> <p>・ほとんどの方が高血圧等の生活習慣病を合併しており、腎機能への影響も見られる方もいる。</p> <p>・医療機関から紹介を受けた段階ですでに腎症を発症している方は血糖が改善しても腎機能の改善は困難だが、悪化防止のため支援を継続している。</p> <p>・病識を持たないまま長い年月を自己流に過ごし、悪化したと考えられる方も見受けられる。</p> <p>・自覚症状がなく、受診した時点で病状が進行している等、医療につながるのが遅い方もいる。</p>	<p>・「がん」領域に記載のとおり</p> <p>[重点] 精検未受診者の受診勧奨 [江]</p> <p>[重点] 特定健康受診率向上対策 [上]</p> <p>[重点] 地区組織の育成、支援 [上]</p> <p>[重点] 特定健診・保健指導 [上・乙]</p> <p>[重点] 特定健診未受診者対策事業 [奥]</p> <p>[重点] 糖尿病重症化予防プログラム [奥]</p> <p>・南檜山糖尿病重症化予防プロジェクト プロジェクトチーム推進会議 年3回程度</p> <p>・住民への普及啓発（機関誌への記事掲載） 年1回程度</p>

## 南檜山圏域地域推進方針領域別推進状況

領域	施策の方向性	主な施策	取組状況（保健所、町、その他）	評価（達成状況、推進上の課題、地域の課題など）	次年度の取組予定（保健所、町、その他）
			RO3、RO4実績（見込み含む）		
精神疾患	相談支援機能の強化	○関係者向けの研修会、人材養成、情報提供、支援等	<ul style="list-style-type: none"> <li>依存症関連 断酒会支援（RO3 実績なし、RO4 1回）</li> <li>高次脳機能障がい関連 RO3 実績なし、RO4 家族交流会 1回</li> <li>ひきこもり関連 RO3、RO4 実績なし</li> <li>思春期関連 研修会（RO3、RO4 実績なし）</li> </ul> <p>&lt;各町の主な取組&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>個別相談〔江・乙〕</li> <li>こころの巡回相談の活用、紹介〔乙〕</li> <li>広報による周知活動、広報・ポスター・パンフレット等による知識の普及〔厚・奥〕</li> <li>思春期健康教育 中学校健康教育「思春期のこころとからだ」（RO3：1回 RO4：1回） 〔上〕</li> <li>小・中学校における健康教育（RO3：6回 RO4：6回）〔乙〕</li> <li>事業所等への健康教育 職場のメンタルヘルスへの取組〔厚〕</li> <li>マタニティブルー・産後うつ予防対策 育児アンケート、妊婦訪問、妊婦教室等〔各町〕</li> <li>「自殺対策推進検討委員会」の開催〔江〕</li> <li>役場職員に対し「ゲートキーパー養成講座」を実施。〔江〕</li> <li>「ゲートキーパー研修」を実施。〔上〕</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>専門的資源が少ない地域において地域支援者の学びと連携強化が望まれる。また、地域の実態把握も必要である。</li> <li>高次脳機能障がいは、わかりにくい障害という特徴があり、本人・家族同士のつながりの機会や地域支援者の学習機会として継続が必要。</li> <li>ひきこもりは、管内でも思春期における不登校問題や8050問題があり潜在者も多い。本人支援の難しさもあり、地域支援者が学びと支援を共有できることが望まれる。</li> <li>健康教育は、思春期の変化を理解してもらう事ができた一方で、個別への対応が不十分との課題も出ている。〔上〕</li> <li>相談があれば対応しているが、広報やパンフレットによる情報提供以外に特に活動ができていない。第一子やメンタル既往の妊産婦が少しずつ増えているため、個別の支援対応が必要になっている。〔厚〕</li> <li>出生数が少ない反面、低出生体重児や早産などに重ねて、子育てに支援や配慮を必要とする母親が多い傾向にある。〔奥〕</li> <li>小中学校と連携し、性教育を通じた「命の大切さ」を伝える事業が展開できている。今後も継続予定。〔乙〕</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の実態に応じて、地域支援者学習会を必要時開催する。</li> <li>高次脳機能障害については、コロポックル道南支部の協力を得ながら、無料相談会や家族交流会、研修会等を必要時開催する。</li> <li>ひきこもり関連の取組は、児童・生徒～高齢者まで幅広い年代への支援に係るニーズを関係者から把握しながら、必要時、こころのリカバリーセンター等に技術支援を依頼する。</li> <li>思春期関連事業については、地域の実情の応じて、必要時開催する。</li> </ul> <p>〔重点〕母子保健関係事業〔厚〕 〔重点〕職場のメンタルヘルス対策〔江〕</p>
		○住民への普及啓発、支援制度の周知等	<ul style="list-style-type: none"> <li>相談関連 精神保健相談 RO3 月1回実施（1回活用） RO4 月1回実施（0回活用）</li> <li>普及啓発 自殺予防週間、月間ポスター掲示</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>精神保健相談について、相談の活用を図るため、ホームページ掲載や関係機関への周知を続けていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>精神保健相談は、毎月1回定例開催予定</li> <li>普及啓発事業については、継続実施</li> </ul>
	地域定着の支援	○退院後の生活支援、関係機関との連携等	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域移行関連 連絡会議（RO3 2回、RO4 3回） 研修会（RO3 1回、RO4 1回）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域社会資源も少なく、地域移行が進みにくいが、できるところから取組みが進められている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域移行関連の連絡会議・研修会に出席、地域関係者と連携し地域の取組みを推進する。</li> </ul>
医療連携体制	○かかりつけ医との連携等	<ul style="list-style-type: none"> <li>南檜山地域SOSネットワーク会議（RO3、RO4 実績なし）</li> <li>思春期ネットワーク会議 実績なし</li> <li>自殺対策連絡会議（RO3 1回、RO4 1回）</li> <li>ゲートキーパー養成講座 RO3 2回江差町、RO4 2回江差町・上ノ国町</li> <li>精神科救急医療体制道南ブロック調整会議 RO3 1回 書面開催、RO4 0回</li> <li>道南ブロック精神科医療機関実務者会議 RO3 1回、RO4 1回</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も地域関係者と課題共有、取組みを推進する。</li> <li>精神科医療機関との連携強化を図るきっかけとなった。今後も連携を図る必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>南檜山地域SOSネットワーク会議は、年1回開催予定</li> <li>思春期ネットワーク会議は、必要時開催予定</li> <li>自殺対策連絡会議は、年1回開催予定 各町策定の市町村自殺対策計画実施の推進を図る。</li> <li>精神科救急医療体制道南ブロック調整会議に出席 管内の課題を提示する。</li> <li>道南ブロック精神科医療機関実務者会議に出席し、道南ブロックの現状・課題を共有。連携の強化を図っていく。</li> </ul>	

## 南檜山圏域地域推進方針領域別推進状況

領域	施策の方向性	主な施策	取組状況（保健所、町、その他）	評価（達成状況、推進上の課題、地域の課題など）	次年度の取組予定（保健所、町、その他）
			RO3、RO4実績（見込み含む）		
救急医療	初期救急医療	○在宅当番医制の維持等	・一般社団法人檜山医師会が在宅当番医制を実施	・現体制の維持に努めている。	・引き続き、現状の在宅当番医体制の維持に努める。 ・地域全体として不足している医師等医療従事者の確保に努める。
	二次救急医療	○病院群輪番体制参加病院の体制維持等	・救急告示医療機関のほか、道立江差病院が地域センター病院の役割として単独実施	・現体制の維持に努めている。	・引き続き、現状の病院群輪番体制の維持に努める。
	三次医療圏との連携等	○消防機関との連携強化等  ○道南ドクターヘリの円滑な運航等  ○南檜山地域医療連携システムを活用した急性期病院との連携等	・管内各医療機関（歯科診療所を除く。）及び檜山広域行政組合消防本部を参集し、「救急医療体制に係る打合せ」を実施し、患者搬送・受入体制について協議（RO3 未開催 RO4 未開催）  ・道南ドクターヘリ運航調整委員会（RO3 書面2回開催 RO4 ハイブリッド2回開催）  ・南檜山地域医療連携システム（イ・ネット南檜山）により、管内10機関・函館市内5機関が患者情報等を共有（RO1 江差病院主催連携システム研修会実施 RO3 未開催 RO4 未開催）	・関係者間で患者搬送・受入体制について協議し、問題点等についての情報共有の上、連携が図られている。  ・道南ドクターヘリの運航実績や道南圏における医療課題等を情報共有の上、連携が図られている。  ・システムにより患者情報を共有し、診療連携が図られている。	・必要に応じ、消防機関との打合せを実施し、より円滑な救急医療体制の構築に努める。  ・道南ドクターヘリ運航調整委員会等へ参画し、道南ドクターヘリの円滑な運航に協力する。  ・南檜山地域医療連携システム（イ・ネット南檜山）の積極的な活用を啓発し、診療連携を促進する。
	住民への普及啓発	○住民への情報提供、普及啓発	・傷病者の救命率の向上等を図るため「救急医療講習会」を開催し、救急法等の普及及び啓発を実施（RO3 未開催 RO4 未開催）	・地域住民を対象に、迅速かつ確かな心肺蘇生法（AED：自動体外式除細動器を用いた心肺蘇生法を含む）等の応急処置について学ぶことができることから、他町での実施が必要である。	・救急法等の普及及び啓発のため、引き続き、管内5町の持ち回りの研修会を実施する。
災害医療	施設耐震化、防災マニュアルの整備等	○医療提供体制施設設備交付金他の活用等  ○自然災害を含む医療機関防災マニュアルの整備等	・管内関係機関に対し、活用可能な補助金等について周知令和3年度医療施設等施設整備事業（有床診療所等スプリンクラー等施設整備事業）を活用。（乙部町国民健康保険病院）  ・病院立入検査の機会を活用し、BCP（緊急時等における事業継続計画）に基づいた災害対応マニュアルの作成について助言・指導（RO1）（RO3 5カ所 RO4 5カ所）	・活用可能な補助金等について周知している。  ・BCPに基づく災害対応マニュアルについて、引き続き、災害時対応の明文化、マニュアル化を促す必要がある。	・医療施設等施設整備事業（有床診療所等スプリンクラー等施設整備事業）を活用予定。（R4～R5 厚沢部町国保）管内関係機関に対し、活用可能な補助金等について周知する。  ・引き続き、BCPに基づいた災害対応マニュアルの見直しについて助言・指導する。
	大規模災害時の他医療機関との連携体制強化	○防災訓練等の実施、町との共同実施等	・管内有床医療機関を対象とした広域災害・救急医療情報システム（EMIS）の入力訓練を実施（RO3 1回開催 RO4 2回開催）	・システム構築以降、管内初の訓練であり、災害時の入力等対応について、連携体制の強化が図られている。	・今後も、EMIS入力訓練を含めた防災訓練等を実施していく。
	へき地医療	○へき地診療所の体制等  ○患者搬送体制の支援、整備等  ○道南ドクターヘリの円滑な運航等	・南檜山地域医療連携システム（イ・ネット南檜山）により、管内10機関・函館市内5機関が患者情報等を共有【再掲】  ・へき地医療対策事業費（運営費）補助金を活用し、乙部町において患者送迎バスを運営費を補助（RO3 RO4）  ・道南ドクターヘリ運航調整委員会等への参画【再掲】（RO3 書面2回開催 RO4 ハイブリッド2回開催）	・「救急医療」領域に記載のとおり  ・へき地の患者を最寄りの医療機関まで安全に輸送、住民の医療の確保を図っている。  ・「救急医療」領域に記載のとおり	・「救急医療」領域に記載のとおり  ・運営費について、乙部町が活用予定 ・引き続き、管内関係機関に対し、活用可能な補助金等を周知する。  ・「救急医療」領域に記載のとおり
へき地医療	○南檜山地域医療連携システムを活用した急性期病院との連携及び連携強化等  ○地域センター病院の充実等	・南檜山地域医療連携システム（イ・ネット南檜山）により、管内10機関・函館市内5機関が患者情報等を共有【再掲】  ・道内体育大学の地域医療支援センターからの医師派遣により医師確保に努めた。（RO3、RO4）	・「救急医療」領域に記載のとおり  ・へき地診療支援を行えるよう、医療従事者の確保を図る必要がある。	・「救急医療」領域に記載のとおり  ・地域センター病院の充実のため、引き続き、医師を始め医療従事者の確保に努める。	

## 南檜山圏域地域推進方針領域別推進状況

領域	施策の方向性	主な施策	取組状況（保健所、町、その他）	評価（達成状況、推進上の課題、地域の課題など）	次年度の取組予定（保健所、町、その他）
			RO3、RO4実績（見込み含む）		
周産期医療	周産期医療体制の整備	○医療技術者の確保、受け入れ体制の整備等 ○総合周産期医療センターとの医療連携体制等	・道立江差病院において、常勤の産婦人科医1名を確保の上、分娩を受け入れていたが、RO1年度をもって、常勤医師廃止により分娩休止	・必要な診療体制の確保を図る必要がある。 ・総合周産期医療センターである函館中央病院等との連携体制の整備が必要である。	・常勤産科医が不在となり、分娩の受け入れが出来ない。引き続き、医師等医療従事者の確保に努める。 ・総合周産期医療センターとの連携に努める。
小児医療	小児救急体制の確保	○勤務状況の改善、複数体制の確保等	・道立江差病院において、常勤の小児科専門医1名による体制を維持	・地域全体で不足している医師等医療従事者の確保に努める必要がある。	・引き続き、医師等医療従事者の確保に努める。
	小児科医師の負担軽減等	○小児救急に関する研修の周知、連携等 ○小児救急電話相談事業等における周知啓発等	・道では一般社団法人北海道医師会に委託し「北海道小児救急医療地域研修会」を実施（RO3） ・ホームページによる「北海道小児救急電話相談事業」の紹介等、不急救軽症患者に対する啓発	・檜山広域消防組合が函館市の研修に参加 ・ホームページにより不急救軽症患者に対する啓発を進めていく必要がある。	・「北海道小児救急医療地域研修会」により、地域の小児救急医療体制の確保・推進を図る。 ・子育て不安の解消のため、住民への啓発に努める。
在宅医療	地域における連携体制の構築	○退院支援から看取りまでの医療提供体制の構築等 ○急変時の対応可能な医療機関相互の連携等 ○多職種間の連携体制の構築等	・南檜山医療・介護連携推進会議（RO3：10回、RO4：12回、） ・機関誌「リンクルみなみひやま」の発行（RO3：年8回、RO4：年6回、） ・南檜山地域看護連携推進会議（RO3：0回、RO4：2回） ・地域看護職員研修（看護職員向け研修）（RO3：0回、RO4：1回） ※南檜山医療・介護連携推進会議と共催 ・在宅看護講座（住民向け講演会）（RO3：0回、RO4：0回） ・檜山地域ケアマネ連絡会主催による研修会（RO3：1回、RO4：0回）	・南檜山医療・介護連携推進会議を継続開催し、多職種による在宅療養支援体制の強化を図っている。 ・機関誌の発行や講演会の開催等により住民への理解促進にも寄与しているが、在宅医療の推進のためには、今後も普及啓発を続けていく必要がある。また、関係者の質の向上のために研修機会の確保も必要である。 ・多職種による在宅療養支援体制の充実においては、住民と連携した仕組みづくりが必要であり、住民連携の視点での取組が必要である。	・南檜山医療・介護連携推進会議（月1回） ・機関誌「リンクルみなみひやま」の発行（年6回） ・南檜山地域看護連携推進会議（年2回程度） ・各種研修会、講演会の開催（必要に応じて）
	緩和ケア体制の整備	○従事者研修の実施、相談支援体制の整備等	・南檜山地域看護連携推進会議主催の研修会にて「緩和ケア」をテーマに開催（H30）。R1以降の実績はなし	・今後も必要なテーマを選定し、開催していく	・南檜山地域看護連携推進会議（年1回程度） ・各種研修会、講演会の開催（必要に応じて）
	在宅口腔ケア体制の充実等	○歯・口腔機能の維持、専門的な口腔ケアの充実等	・在宅難病療養者等訪問口腔ケア事業の実施（RO3：0回、RO4：0回）	・在宅療養者の対象者が生じた場合は、口腔衛生状態及び口腔機能の維持、改善を図る必要がある。	・事業の周知とともに対象者が生じた場合、事業の実施を検討する。
	訪問看護の質の向上	○職員の確保、研修による質の向上等	・南檜山地域看護連携推進会議にて「訪問看護出向事業」について紹介（H30） ・同会議主催の研修会の開催（H30 緩和ケア）	・今後も必要なテーマを選定し、開催していく。 ・「訪問看護人材の確保」について、医療機関の看護職員等に対する周知を実施し、事業の推進を図っていく必要がある。	・南檜山地域看護連携推進会議（年1回程度） ・各種研修会、講演会の開催（必要に応じて）
	在宅医療の理解の促進	○わかりつけの必要性、役割の普及啓発、在宅医療に係る普及啓発、情報提供等	・南檜山医療・介護連携推進会議（月1回） ・機関誌「リンクルみなみひやま」の発行（RO2：年7回、RO3：8回）	・南檜山医療・介護連携推進会議の活動や機関誌「リンクルみなみひやま」等、普及啓発を続けていく必要がある。	・南檜山医療・介護連携推進会議（月1回） ・機関誌「リンクルみなみひやま」の発行（年6回程度）

## 南檜山圏地域推進方針領域別推進状況

領域	施策の方向性	主な施策	取組状況（保健所、町、その他）	評価（達成状況、推進上の課題、地域の課題など）	次年度の取組予定（保健所、町、その他）
			RO3、RO4 実績（見込み含む）		
その他地域保健医療対策	難病対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>○治療研究事業推進等</li> <li>○在宅療養への支援等</li> <li>○地域連携による効果的な支援の検討等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・治療研究事業 受給者数（RO4.2月末 223名）、（RO5.3月末 227名）出張受付 RO3、RO4とも実施なし。</li> <li>・訪問リハビリ（RO3 0件）（RO4 0件）</li> <li>・在宅療養支援計画策定・評価事業（RO3、RO4ともに未実施） ※RO3.3月に管内の在宅難病患者を対象に実情把握を目的としたアンケート調査を実施。結果については、RO4の難病協議会で報告し、課題共有した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・更新申請事務は、本庁集約となったことで、交付が遅れるなどが発生。</li> <li>・RO3、RO4ともに新型コロナウイルス感染症の流行に伴い未実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・治療研究事業の申請事務は、令和4年度から本庁に正式に業務が集約されたため、それに伴い出張受付は行わないこととした。</li> <li>・来年度以降の実施については、訪問リハビリ対象者のニーズを把握し、必要時支援を依頼する。</li> <li>・RO4の難病専門部会は、RO4.8月とRO5.1月に実施。8月では疾患への理解を深めることを目的に医師による講演を実施。1月ではRO3で実施したアンケート結果の報告と課題の共有、災害時における在宅難病患者への避難行動支援について協議した。</li> </ul>
	地域歯科保健医療	<ul style="list-style-type: none"> <li>○保育所・学校等におけるフッ化物先口等の推進等</li> <li>○高齢者に対する口腔ケア体制の整備等</li> <li>○歯・口腔の健康づくりの普及啓発等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フッ化物洗口導入に向けたリーフレットの送付</li> <li>・北海道歯・口腔の健康づくり8020推進週間に伴うパネル展の実施及びポスター等の送付及び所内掲示</li> </ul> <p>&lt;各町の取組&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各種歯科健診等〔各町〕</li> <li>・フッ化物塗布事業〔各町〕</li> <li>・保育所・幼稚園・小学校等でのフッ化物洗口〔江・厚・乙・奥〕 ※ 江差町～新型コロナウイルス感染症拡大のため、小学校でのフッ化洗口及び健康教育中止</li> <li>・歯みがき教室〔江・厚〕</li> <li>・歯周病健診（特定保健指導時）〔奥〕</li> <li>・高齢者に対する普及啓発 介護予防教室等における口腔ケア普及啓発〔上・厚〕</li> <li>・むし歯のない子の表彰〔上・乙〕</li> <li>・保護者の歯科健診〔江〕</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フッ化物洗口については、導入時期をいつにするのかまた、実際に洗口を行う地域の歯科医院の先生が賛同するかなど様々な課題があり、計画性の定めた推進が必要。</li> <li>・歯・口腔ケアに係る健康づくりについて、パネル展を開催し、8020運動の推進を図ることが出来た。</li> <li>・乳幼児のうち歯保有率は年代によっては増加が見られる。就労している母親が多いため、幼児歯科検診の受診者が固定している。〔上〕</li> <li>・コロナ禍で中止していた、保育所・幼稚園でのフッ素洗口及び歯みがき教室を再開した。〔江〕</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・未導入施設への普及啓発及事業説明を行う。</li> <li>・歯・口腔ケア（8020推進週間）に係る普及啓発</li> </ul> <p>〔重点〕フッ素洗口の実施機会の確保〔江〕 〔重点〕幼児歯科検診〔上〕</p>
	今後高齢化に伴い増加する疾病等対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>○介護予防事業の助言、支援、専門職の派遣等</li> <li>○ロコモティブシンドロームの予防に向けた普及啓発等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護予防従事者研修会（道南ブロックで隔年開催） H30 フレイル予防をテーマに関係者を対象に開催 R3は、渡島で開催</li> </ul> <p>&lt;各町の取組&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護予防教室、運動教室、介護予防事業等〔各町〕</li> <li>・肺炎球菌予防接種、インフルエンザ予防接種の助成〔江・上・乙〕</li> <li>・ウォーキング、ノルディックウォーキング普及啓発〔江・乙〕</li> <li>・自治会等への食育教室〔上〕</li> <li>・老人クラブ等での健康教育〔江・厚・乙〕</li> <li>・男性の料理教室〔江〕</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フレイル状態にある高齢者を早期に発見することを目的に開催してきた。今後は必要なテーマを選定し、必要に応じて事業の実施を検討する。</li> <li>・高齢者に対する介護予防普及啓発事業や運動機能の維持向上目的とした事業を実施。</li> <li>・高齢者の保健事業の一体化に向けて協議及び体制づくりが必要。〔江〕</li> <li>・認知症の高齢者及び独居男性等への普及啓発の機会が少ない。〔上〕</li> <li>・参加者が固定化し、地域への波及効果が十分でないため、地域団体等との連携による様々な面での関わりが必要である。〔乙〕</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度未開催だったので、R3に開催。R4からは隔年開催</li> </ul> <p>〔重点〕高齢者の健康づくり〔江〕 〔重点〕訪問指導〔上〕 〔重点〕地区組織に対する健康教室〔上〕</p>
	訪問看護ステーションの役割	<ul style="list-style-type: none"> <li>○在宅療養に向けた医療関係者との連携、環境整備等</li> <li>○地域の特性や生活状況を踏まえたケアの提供、家族への支援等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「在宅医療」領域に記載のとおり</li> <li>・「在宅医療」領域に記載のとおり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「在宅医療」領域に記載のとおり</li> <li>・「在宅医療」領域に記載のとおり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「在宅医療」領域に記載のとおり</li> <li>・「在宅医療」領域に記載のとおり</li> </ul>
	医療従事者の勤務環境改善	○北海道医療勤務環境改善支援センターの取組の周知	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域医療構想専門部会において、医師の働き方改革及び北海道医療勤務環境改善支援センター等について説明</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・勤務環境の改善に向けた支援策が医療機関や医療従事者に十分認知されていないことから、今後、周知が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北海道医療勤務環境改善支援センターの役割、業務について、引き続き周知を図る。</li> </ul>
医療従事者等の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>○医師、看護職員等の就業、確保対策</li> <li>○普及啓発</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「めざせ看護師！檜山塾」夏季セミナー及び冬季セミナー※高校生を対象に看護師養成のためのセミナーを開催。（RO3）夏季12名、冬季30名（いずれもオンライン）終了「看護連携推進検討会議」〔R4 2回〕</li> <li>・北海道医療人材確保ポータルサイトの紹介</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「めざせ看護師！檜山塾」事業はRO3で終了とする。</li> <li>・看護師確保対策として、各関係機関（医療機関・養成機関・教育局）との連携が必要である。 看護師不足は地域課題であり、今後も「看護連携推進検討会議」を継続して開催していく必要がある。</li> <li>・医療従事者等の確保に向けた取り組みは今後も必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・江差高等看護学院での保健所職員による各種講義や学院が実施する各種事業への支援及び「看護連携推進検討会議」を開催し、地域での看護職員の定着・確保に努める。</li> </ul>	